



データの収集と消去

- [データ収集ジョブの制御 \(1 ページ\)](#)
- [データ保持設定が Web GUI データに及ぼす影響 \(4 ページ\)](#)
- [パフォーマンスおよびシステムのヘルス データ保持 \(5 ページ\)](#)
- [データベース テーブル別のデータ保持の指定 \(7 ページ\)](#)
- [アラーム、イベント、および Syslog の消去 \(8 ページ\)](#)
- [ログの消去 \(9 ページ\)](#)
- [レポートの消去 \(9 ページ\)](#)
- [バックアップの消去 \(10 ページ\)](#)
- [デバイス コンフィギュレーション ファイルの消去 \(10 ページ\)](#)
- [ソフトウェア イメージ ファイルの消去 \(10 ページ\)](#)

データ収集ジョブの制御

すべてのデータ収集タスク（およびデータ消去タスク）がジョブダッシュボードから制御されます。「[ジョブダッシュボードを使用したジョブの管理](#)」を参照してください。データ収集ジョブは、「システムジョブ」に一覧表示されています。

システムジョブについて

次の表に、Cisco EPN Manager が実行するバックグラウンドデータ収集ジョブの説明を示します。

表 1: インベントリ データ収集ジョブ

タスク名 (Task Name)	デフォルトスケジュール (Default Schedule)	説明	編集可能なオプション
インフラストラクチャ ジョブ			

タスク名 (Task Name)	デフォルト スケジュール (Default Schedule)	説明	編集可能なオプション
データのクリーンアップ (Data Cleanup)	2 時間	このジョブは、日単位のデータファイルのクリーンアップをスケジュールします。	[スケジュールの編集 (Edit Schedule)] > [繰り返し (Recurrence)] の順に選択し、ジョブをスケジュールするための適切な設定を選択します。
デバイス設定の外部バックアップ (Device Config Backup-External)	15 分	このジョブは、すべてのデバイス設定 (Zip 形式のテキストファイル) を事前定義された外部リポジトリにエクスポートします。リポジトリの設定や作成は CLI コマンドで行うことができます。サポートされているリポジトリは FTP、SSH FTP (SFTP)、ネットワークファイルシステム (NFS) です。	[スケジュールの編集 (Edit Schedule)] > [繰り返し (Recurrence)] の順に選択し、ジョブをスケジュールするための適切な設定を選択します。 [編集 (Edit)] アイコンをクリックし、[最新の設定のみをエクスポートする (Export only Latest Configuration)] チェックボックスをオンにすると、最新の設定のみが転送されます。 ロールベース アクセス コントロール (RBAC) で設定されたユーザ権限に基づいて、ジョブのプロパティを編集することができます。
インデックス検索エンティティ (Index search Entities)	3 時間	このジョブは、インデックス検索エンティティをスケジュールします。	[スケジュールの編集 (Edit Schedule)] > [繰り返し (Recurrence)] の順に選択し、ジョブをスケジュールするための適切な設定を選択します。
サーバのバックアップ (Server Backup)	1 日	このジョブは、Cisco EPN Manager サーバの自動バックアップをスケジュールします。作成されるバックアップは、アプリケーションバックアップです。	[スケジュールの編集 (Edit Schedule)] > [繰り返し (Recurrence)] の順に選択し、ジョブをスケジュールするための適切な設定を選択します。

タスク名 (Task Name)	デフォルトスケジュール (Default Schedule)	説明	編集可能なオプション
スマート ライセンスのコンプライアンス ステータス (Smart License Compliance Status)	無効	このジョブは、スマートライセンスに対してデフォルトのスケジュールで実行されます。	編集不可。
インベントリおよびディスクバリジョブ			
スイッチインベントリ (Switch Inventory)	1 日	このジョブは、特定のスケジュールに従って定期的に到達可能な検出済みデバイスのインベントリを収集します。	[スケジュールの編集 (Edit Schedule)] > [繰り返し (Recurrence)] の順に選択し、ジョブをスケジュールするための適切な設定を選択します。
failedFeatureSync	30 分	このジョブは、CWW 内のデバイスの失敗した機能のみのインベントリを収集し、デバイス CF の定期的な完全同期を実行します。このジョブはデフォルトで一時停止されます。顧客は選択に基づいて有効化できます。	[スケジュールの編集 (Edit Schedule)] > [繰り返し (Recurrence)] の順に選択し、ジョブをスケジュールするための適切な設定を選択します。
ステータス ジョブ			
自律型 AP の動作ステータス (Autonomous AP Operational Status)	5 分	このジョブは、自律型ワイヤレスアクセスポイントのステータスポーリングをスケジュールします。	[スケジュールの編集 (Edit Schedule)] > [繰り返し (Recurrence)] の順に選択し、ジョブをスケジュールするための適切な設定を選択します。
スイッチの動作ステータス (Switch Operational Status)	5 分	このジョブは、ノードの到達可能性をチェックします。	[スケジュールの編集 (Edit Schedule)] > [繰り返し (Recurrence)] の順に選択し、ジョブをスケジュールするための適切な設定を選択します。

タスク名 (Task Name)	デフォルトスケジュール (Default Schedule)	説明	編集可能なオプション
サードパーティ アクセス ポイントの動作ステータス (Third party Access Point Operational Status)	3 時間	このジョブは、サードパーティ AP の動作ステータスポーリングをスケジュールします。	[スケジュールの編集 (Edit Schedule)] > [繰り返し (Recurrence)] の順に選択し、ジョブをスケジュールするための適切な設定を選択します。
サードパーティ コントローラの動作ステータス (Third party Controller Operational Status)	3 時間	このジョブは、サードパーティコントローラの動作ステータスポーリングをスケジュールします。	[スケジュールの編集 (Edit Schedule)] > [繰り返し (Recurrence)] の順に選択し、ジョブをスケジュールするための適切な設定を選択します。
ワイヤレス AP 検出 (Wireless AP Discovery)	5 分	このジョブは、ワイヤレス AP 検出をスケジュールします。	[スケジュールの編集 (Edit Schedule)] > [繰り返し (Recurrence)] の順に選択し、ジョブをスケジュールするための適切な設定を選択します。

データ保持設定が Web GUI データに及ぼす影響

[データの保持 (Data Retention)] ページで加えた変更に従って、Web GUI に表示される情報が決まります。[データの保持 (Data Retention)] ページを開くには、[管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] > [システム設定 (System Settings)] を選択し、さらに [一般 (General)] > [データの保持 (Data Retention)] を選択します。

たとえば、7日より前の古い履歴パフォーマンスデータが不要な場合、パフォーマンスデータ保持の値を次のように変更できます。

- [短期データ保持期間 (Short-term Data Retention Period)] : 1 日
- [中期データ保持期間 (Medium-term Data Retain Period)] : 3 日
- [長期データ保持期間 (Long-term Data Retain Period)] : 7 日

このような設定に変更すると、パフォーマンス レポートおよびパフォーマンス ダッシュボードに表示されるすべてのデータは、過去7日間のみが対象になります。パフォーマンス レポートを作成すると、過去7日間より長いレポート期間を選択した場合でも、レポートには過去7日間のデータのみが含まれます (これは、保持するように選択したデータが7日間分であるためです)。

同様に、パフォーマンスダッシュボードを表示して1週間を超える時間枠を選択しても、ダッシュボードには過去7日間の日付のみが含まれます。

インターフェイスのモニタリングポリシーを作成する際に、15分ごと、5分ごと、または1分ごとのポーリング間隔を定義できます。選択したポーリング間隔に基づいてデバイスデータがポーリングされ、Oracle データベースに保存されます。データは1時間ごとに AHxxx テーブルに集約されます。また、1/5/15分に設定されたポーリング間隔に関係なく、ADxxx テーブルへの集約が1日に1回行われます。

[インターフェイスヘルスポリシー (Interface Health Policy)] タブでは、頻度が5分に設定されている場合は、1時間あたり12個のサンプルを表示できます。1時間ごとにデータが集約テーブルに移動されてインターフェイス統計の平均値が算出され、1時間ごとの集約テーブルに1つのエントリが表示されます。ポーリング間隔に関係なく、集約はすべてのポリシーで同一です。

データ保持の詳細とデータストレージの期間、イベント時間 (ミリ秒単位)、および各データベースのエンティティ ID とイベント時間を表示できます。パフォーマンスデータと集約データは、[パフォーマンスダッシュレット (Performance Dashlet)] > [インターフェイス (Interfaces)] > [トラフィック使用率 (Traffic Utilization)] タブに表示されます。

パフォーマンスおよびシステムのヘルス データ保持



(注) デフォルト設定はインタラクティブグラフから最も役立つ情報を取得するように最適化されているため、トレンド、デバイスヘルス、システムヘルス、およびパフォーマンスデータの保持期間を変更しないことをお勧めします。

次の表に、[データの保持 (Data Retention)] ページに表示される情報を示します。

データのタイプ	説明	デフォルトの保持設定	保持設定範囲
傾向データの保持期間 (Trend Data Retain Periods)	デバイス関連の履歴情報。トレンドデータは全体として収集され、最小、最大、または平均として要約されます。	毎時データの保持期間：15 (日) 日次データの保持期間：90 (日) 週次データの保持期間：54 (週)	時間単位のデータ：1～31 (日) 日単位のデータ：7～365 (日) 週単位のデータ：2～108 (週)

データのタイプ	説明	デフォルトの保持設定	保持設定範囲
デバイスヘルスデータの保持期間 (Device Health Data Retain Periods)	デバイスの到達可能性などの SNMP ポーリングされたデバイスデータ、および CPU、メモリ、インターフェイスの使用率。	毎時データの保持期間：15 (日) 日次データの保持期間：90 (日) 週次データの保持期間：54 (週)	時間単位のデータ：1～31 (日) 日単位のデータ：7～365 (日) 週単位のデータ：2～108 (週)
パフォーマンスデータの保持期間 (Performance Data Retain Periods)	トラフィック統計などの保証データ。 <ul style="list-style-type: none"> 短期データは 5 分ごとに集約されます。 中期データは 1 時間ごとに集約されます。 長期データは 1 日ごとに集約されます。 (注) 【詳細設定 (Advanced Settings)】 をクリックして、使用可能な属性の 【経過時間 (日) (Age (In days))】 と 【最大レコード数 (Max Records)】 を設定できます。	短期データの保持期間：7 (日) 中期データの保持期間：31 (日) 長期データの保持期間：378 (日)	短期の範囲：1～31 (日) 中期の範囲：7～365 (日) 長期の範囲：2～756 (日)
ネットワーク監査データの保持期間 (Network Audit Data Retain Period)	ユーザがトリガーする構成の監査レコードなど。	監査データの保持期間：90 (日)	7～365 (日)
ユーザジョブデータ保持期間	完了状態のユーザジョブのすべてのレコード。	ユーザジョブデータ保持期間：7 (日)	2～365 (日)

データのタイプ	説明	デフォルトの保持設定	保持設定範囲
システムヘルスデータの保持期間 (System Health Data Retain Periods)	管理ダッシュボードに表示されるほとんどのデータが含まれます。	毎時データの保持期間：1 (日) 日次データの保持期間：7 (日) 週次データの保持期間：54 (週)	時間単位のデータ範囲：1～31 (日) 日単位のデータ範囲：7～365 (日) 週単位のデータ範囲：2～108 (週)

たとえば、これらは光パフォーマンス データの保持設定です。

- [オプティカル30秒 (Optical 30 secs)] のパフォーマンスデータ (短期) は1時間保存されます。
- 光回線の15分間のパフォーマンスデータ (短期) はデフォルトでは1日間保存されます。1～14日の範囲で日数を変更できます。
- 光回線の1日のパフォーマンスデータ (中期) は、デフォルトで30日間保存されます。30～90日の範囲で日数を変更できます。

データベース テーブル別のデータ保持の指定

管理者は、[データ保存 (Data Retention)] ページの [その他のデータ保存基準 (Other Data Retention Criteria)] セクションを使用して、特定の Cisco EPN Manager データベース テーブルの保持期間を設定できます。次の属性を使用して保持期間を指定できます。

- [期間 (時間単位) (Age (in hours))] : データベース内のすべてのレコードの最大データ保持期間を時間単位で指定します。
- [最大レコード数 (Max Records)] : 特定のデータベース テーブルに保持するレコードの最大数を指定します。[最大レコード数 (Max Records)] の値が「NA」の場合、考慮される保持条件が [経過時間 (Age)] 属性のみであることを意味します。

セクションは、複数のサブセクションに分類されます。それぞれのサブセクションには、各データベース テーブル名と現在の [経過時間 (Age)] および [最大レコード数 (Max Records)] の値が一覧表示されます。これらの値によって、テーブル内の個々のレコードが保持されるか破棄されるかが決定されます。このページには、テーブル内のデータの期間経過を計算するために使用される [経過時間 (Age)] 属性テーブルも一覧表示されます。

このセクションのいずれかのテーブルの値を変更するときは、事前に Cisco Technical Assistance Center に相談することを強くお勧めします。支援なしに変更すると、システムパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。

- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] > [システム設定 (System Settings)] > [一般 (General)] > [データの保持 (Data Retention)] の順に選択します。
- ステップ 2 [その他のデータ保存基準 (Other Data Retention Criteria)] セクションを展開します。
- ステップ 3 [経過時間 (Age)] および [最大レコード数 (Max Records)] の値を指定するデータベーステーブルサブセクションを展開します。
- ステップ 4 一覧表示しているデータベース テーブルをクリックし、必要に応じて新しい値を入力します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

アラーム、イベント、および Syslog の消去



- (注) これらのデフォルトの消去設定は、最適なパフォーマンスを保証するために用意されています。これらの設定を調整するときには、特に Cisco EPN Manager が非常に大規模なネットワーク（これらの設定値を大きくすると悪影響が生じる可能性がある）を管理している場合に注意が必要です。

Cisco EPN Manager は、最大 8000000 個のイベントと 2000000 個の syslog をデータベースに格納します。

システムパフォーマンスを保護するため、Cisco EPN Manager は次の表の設定に従ってアラーム、イベント、および syslog を消去します。これらの設定はすべてデフォルトで有効化されます。データは毎日削除されます。アラーム テーブルは毎時チェックされ、アラーム テーブルが 300,000 の上限を超えた場合、Cisco EPN Manager は、アラーム テーブルのサイズが制限内に収まるまで、最も古いクリア済みアラームを削除します。

データ タイプ	削除されるまでの日数 :	デフォルト設定
アラーム : クリア済みのセキュリティアラーム	30日間	有効
アラーム : クリア済みの非セキュリティアラーム	7 日	有効
イベント	60 日	有効
Syslogs	30日間	有効
アラーム	30日間	無効

設定を変更するには、[管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] > [システム設定 (System Settings)] を選択して、[アラームおよびイベント (Alarms and Events)] > [アラームおよびイベント (Alarms and Events)] を選択し、[アラームおよびイベントのクリーンアップオプション (Alarm and Event Cleanup Options)] エリアの設定を変更します。

ログの消去

ログの消去設定を調整するには、[管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] > [ロギング (Logging)] を選択します。ログは最大サイズに達するまで保存されます。最大サイズに達した時点で、ログファイルに番号が追加され、新しいログが開始されます。ログの数が最大数を超えると、最も古いログが削除されます。

次の表に、一般ログと SNMP ログのデフォルトの消去値をリストします。

ログタイプ	ログのサイズ	ログの数	設定を変更する場合の参照先：
一般	10 MB	10	一般的なログファイルの設定とデフォルトサイズの調整
SNMP	10 MB	5	一般的なシステム ログを表示して管理する

レポートの消去

デフォルトでは、リポジトリに保存されているレポートは7日後に削除されます。

リポジトリのディレクトリパスは次のとおりです。

- スケジュール済みレポートのリポジトリ：/localdisk/ftp/reports
- オンデマンドレポートのリポジトリ：localdisk/ftp/reportsOnDemand

-
- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] > [システム設定 (System Settings)] の順に選択し、[一般 (General)] > [レポート (Reports)] を選択します。
- ステップ 2** 必要に応じて、サーバ上のレポートリポジトリの場所を変更します。リポジトリは、FTPルートパーティションの下になければなりません。
- ステップ 3** デフォルトの消去までの経過期間を変更する場合は、[ファイルの保持期間 (File Retain Period)] フィールドを1～366日の範囲の値で更新します。デフォルトの保持期間は7日間です。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

保持期間を更新すると、Cisco EPN Manager はレポートをすぐには消去せず、一晩経過した後のみ消去します。

バックアップの消去

デフォルトで、2つのバックアップがローカルリポジトリに保存されます。リモートリポジトリを使用している場合は、自動バックアップ消去メカニズムがありません。古いバックアップを手動で削除する必要があります。[保存する自動アプリケーションバックアップ数の変更](#)を参照してください。

デバイス コンフィギュレーション ファイルの消去

デバイスごとに、5つのコンフィギュレーションファイルが設定アーカイブに保存されます。30日より前のファイルは消去されます。デバイス コンフィギュレーション ファイルは手動で削除することができません。デバイス コンフィギュレーション ファイルの詳細については、[デバイス コンフィギュレーション ファイルの管理](#)を参照してください。

ソフトウェア イメージ ファイルの消去

デバイス ソフトウェア イメージ ファイルは、データベースから自動的に消去されません。このファイルは、GUIクライアントを使用して手動で削除する必要があります。詳細については、[イメージリポジトリからのソフトウェアイメージファイルの削除](#)を参照してください。